

2013年5月7日  
株式会社 DTS  
株式会社日立製作所

## **DTS が迅速かつ容易にビッグデータの戦略的な分析、活用を可能にする アプライアンス製品「DaTa SuperExpress」を日立と共同開発し販売開始**

操作性に優れたビジネスインテリジェンスツールと超高速大容量のデータウェアハウスを連携して提供

株式会社DTS(代表取締役社長:西田 公一/以下、DTS)は、このたび、株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)の協力のもと、ビッグデータの戦略的な分析、活用を可能にするBI<sup>\*1</sup>用アプライアンス製品「DaTa SuperExpress」を開発し、6月3日から本格的に発売開始します。本製品は、優れた操作性で業務データの容易な分析を可能にするBIツール「BI NavigationStudio」と、日立が開発し、自社従来比約100倍のデータ検索処理性能をもつ高速データアクセス基盤「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム」<sup>\*2</sup>をデータウェアハウス<sup>\*3</sup>の処理基盤として連携させたものです。DTSは、2013年7月に、日立ハーモニアス・コンピテンス・センター(東京都港区)内に、本製品の導入を検討するユーザー向けの性能の事前検証環境を設置する予定で、日立の協力のもと、「DaTa SuperExpress」の販売を推進し、ユーザーのビッグデータの分析、活用を支援します。

<sup>\*1</sup> BI(Business Intelligence):企業などの組織の膨大なデータを、蓄積、分析、加工することで、経営などの意思決定に活用しようとする手法や技術。

<sup>\*2</sup> 内閣府の最先端研究開発支援プログラム「超巨大データベース時代に向けた最高速データベースエンジンの開発と当該エンジンを核とする戦略的社会サービスの実証・評価」(中心研究者:喜連川 国立大学法人東京大学教授/国立情報学研究所所長)の成果を利用。

<sup>\*3</sup> データウェアハウス(Data Warehouse):時系列に蓄積された大量のデータの中から、各項目間の関連性を分析するシステム。

近年、企業や社会活動で発生するデータは爆発的に増加しており、さまざまな分野において発生するデータを分析し、新たなビジネスやサービスを創出する動きが加速しています。それに伴い、経営情報や販売情報など、多岐にわたるデータの多角的な分析を可能とするBIツールの導入が広く進んでおり、特に、統計や解析手法の専門知識を必要としない操作性に優れたBIツールのニーズが高まっています。また、BIツールの分析にかかる時間は、連携するデータウェアハウスの検索処理性能に大きく左右されることから、ビッグデータの分析においては、データ量を気にすることなく、迅速にデータ分析を行うことを可能にするデータウェアハウスが求められています。

DTSは、2011年10月に、BIツール「データスタジオ@Web」を強化し、業務データをフローやガイドランスなどの画面指示に沿って容易に分析できる「BI NavigationStudio」を、日立の協力のもとで開発、提供してきました。一方、日立は、2012年5月に、国立大学法人東京大学と共同開発した超高速データベースエンジンと、日立製サーバおよびストレージを組み合わせた高速データアクセス基盤「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム」を製品化し、提供してきました。

DTSは、今回、日立と共同で、ビッグデータの分析、活用のニーズの高まりに対応するべく、「BI NavigationStudio」と「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム」を連携させたBI用アプライアンス製品「DaTa SuperExpress」を開発しました。本製品は、BIツールに接続するデータウェアハウスの処理基盤として、従来比約100倍のデータ検索処理性能をもつ高速データアクセス基盤を採

用したことで、TB(テラバイト)以上のビッグデータを迅速に一括で分析することが可能です。一般的なRDBMS\*4をデータウェアハウスの処理基盤として採用した場合と比較して、データ分析時間を大幅に短縮\*5でき、従来、データウェアハウスの検索処理性能上の制約から、データ量の多さのために分析データの対象範囲を絞らざるを得なかった場合においても、データ量を気にすることなく、迅速なデータ分析を行うことができます。また、分析するデータ量が増加した際に、メモリを追加することなく、処理性能を維持できるなど、投資規模を抑えた形で、ビッグデータの分析、活用が可能です。

\*4 RDBMS(Relational DataBase Management System:関係データベース管理システム):関係モデルと呼ばれる概念に基づいてデータを扱うデータベースで、現在もっとも広く用いられているデータベースの形式である Relational DataBase を管理するソフトウェア。

\*5 日立にて、1.5TB の POS データの分析について、一般的な DBMS をデータウェアハウスの処理基盤とした場合の処理時間と、「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム」をデータウェアハウスの処理基盤とした場合の処理時間を測定、比較した結果、約13.5時間から約7.5分への短縮を確認しています。なお、本製品によるデータ分析の高速化の度合いは、条件によって異なります。

DTSは、5月8日から東京ビッグサイトで開催される「第18回データウェアハウス&CRM EXPO」に本製品を紹介いたします。今後、日立の協力のもと、「DaTa SuperExpress」の販売を積極的に推進し、2013年度に1億円、2015年度までの3年間で5億円の売上をめざします。

## ■「DaTa SuperExpress」の主な特長

### 1. 優れた操作性で業務データの容易な分析を可能とするBIツール「BI NavigationStudio」

BIツールの基本機能であるOLAP機能\*6、自由分析機能、定型分析機能を備え、ユーザーがフローやガイダンスなどの画面表示の指示に従ってデータ入力やボタン選択を行うだけで、主要なデータ分析手法であるRFM分析\*7、ABC分析\*8、デシル分析\*9など、業務に直結するデータ分析を容易に行うことができます。また、ユーザー自身が新しいフローを独自に作成することも可能です。これにより、店舗や支店など、分析手法に関する専門知識のない現場部門のユーザーが主体的に、かつ容易にデータ分析でき、業務効率の向上や迅速な販売戦略の策定実行が可能となります。

\*6 OLAP(OnLine Analytical Processing)機能:データベースを多次的に解析し、視覚化する機能。

\*7 RFM分析:顧客のこれまでの購買情報や購買履歴から、優良顧客の抽出を行う分析手法。R(Recency:最終購買日)、F(Frequency:購買頻度)、M(Monetary:累計購買金額)を分析軸とする。

\*8 ABC分析:管理対象を、重要な順にA、B、Cの3ランクに分け、重要度に応じた管理を可能とする手法。

\*9 デシル分析:全顧客を購入金額の高い順に10等分し、その売上構成比を分析する分析手法。

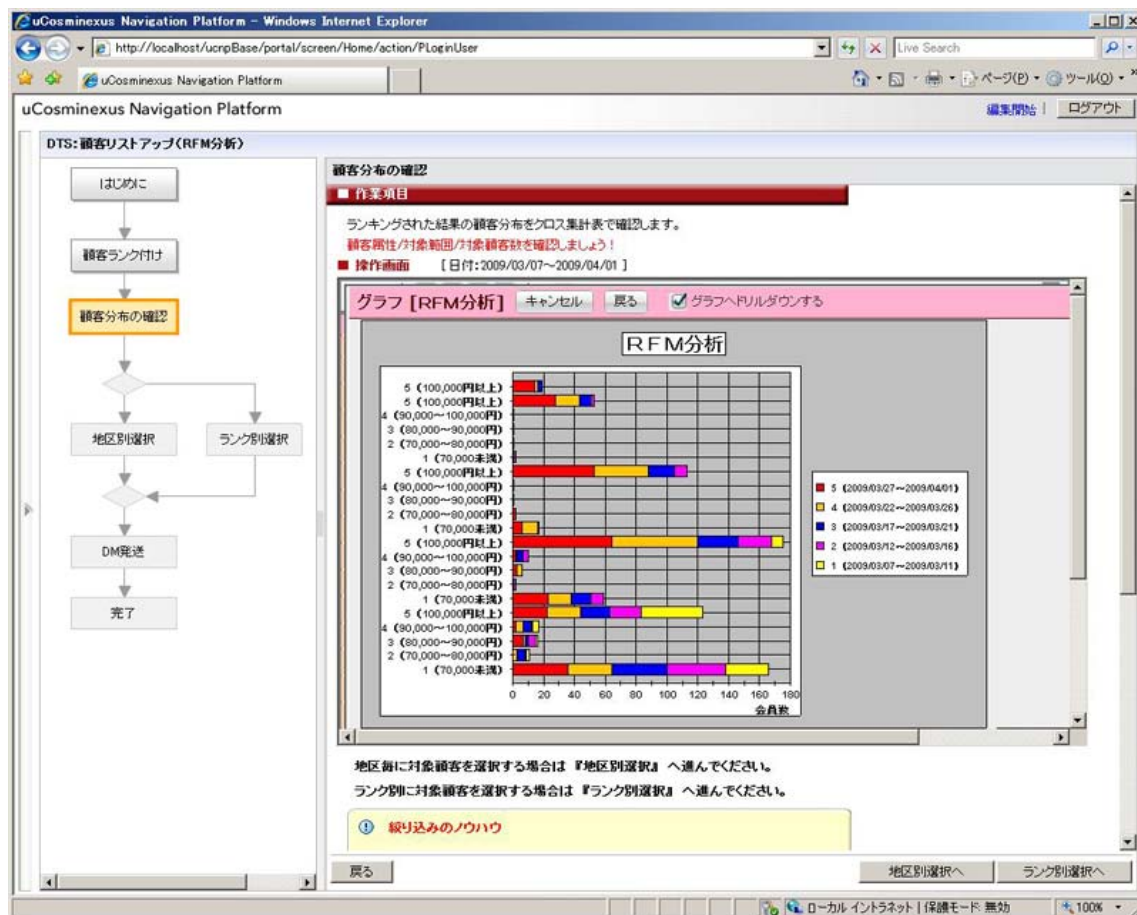
### 2. 超高速なデータ検索を可能とするデータウェアハウスおよびストレージ基盤

本製品は、日立が、大量のデータ処理を高速化する新技術である非順序型実行原理\*10を採用し、開発した高速データアクセス基盤「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム」をデータウェアハウスの処理基盤に適用しています。日立が自社従来比で約100倍と、飛躍的な高性能を実現した高速データアクセス基盤と連携させることで、例えば、販売データの分析を行う際に、分析対象の期間を、データウェアハウスの性能上の制約によって1年間だった分析対象の期間を、10年間に拡大したり、分析単位を1日単位から1時間単位に変更するといったことが可能となり、従来とは異なる観点から、迅速かつ柔軟なデータ分析が可能となります。また、データウェアハウスの処理性能を確保するために、夜間などに時間をかけて分析対象とするデータマート\*11を準備するといった作業の必要がなくなり、ビッグデータを分析するプログラムの設計、作成時間を大幅に削減できます。

また、本製品は、日立製ストレージの採用により、ストレージ性能設計の負担を軽減しています。具体的には、ストレージ階層仮想化およびボリューム容量仮想化機能によって、ストレージプールを構成するストレージ階層間でデータを自動的に再配置することで、データ検索に最適な状態を維持します。さらに、コントローラの自動負荷分散機能により、コントローラ性能を最大限に活用できます。

- \*10 喜連川 東大教授/国立情報学研究所所長・合田 東大特任准教授が考案した原理。データ入出力要求の発生順序とは無関係な順序で非同期にデータを処理することでハードウェア性能を最大限に引き出すことが可能。
- \*11 データマート:データウェアハウスから、特定の目的に応じて抽出した小規模なデータベース。

### ■「DaTa SuperExpress」の画面イメージ



### ■「DaTa SuperExpress」のモデル一覧

モデル名	モデル概要	対象規模	価格(税込)	出荷開始時期
エントリーモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オール HDD(Hard Disk Drive) のコストを重視したモデル</li> <li>・「BI NavigationStudio」10 ライセンス付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザー数(目安): ~100</li> <li>・ストレージ容量: 1~4TB</li> <li>・最大取扱データ量: 1TB<sup>*12</sup></li> </ul>	12,900,000 円~ <sup>*13</sup>	2013 年 6 月 3 日
スタンダードモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSD(Solid State Drive)、HDD 混在のコストパフォーマンスを重視したモデル</li> <li>・「BI NavigationStudio」無制限ライセンス付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザー数(目安): ~1,000</li> <li>・ストレージ容量: 3.3~117.3TB</li> <li>・最大取扱データ量: 29TB<sup>*12</sup></li> </ul>	52,000,000 円~ <sup>*13</sup>	
SSDモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オール SSD のパフォーマンスを重視したモデル</li> <li>・「BI NavigationStudio」無制限ライセンス付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザー数(目安): 100~</li> <li>・ストレージ容量: 0.7~49TB</li> <li>・最大取扱データ量: 12TB<sup>*12</sup></li> </ul>	88,000,000 円~ <sup>*13</sup>	

\*12 テキストデータの場合。

\*13 オプション除く。

■「DaTa SuperExpress」に関するホームページ

<http://www.dts.co.jp/section/solution/datasuperexpress/>

■高速データアクセス基盤「Hitachi Advanced Data Binder プラットフォーム」に関するホームページ

[http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/big\\_data/data-binder.html](http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/big_data/data-binder.html)

■「日立ハーモニアス・コンピテンス・センター」に関するホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/products/harmonious/center/>

■商標注記

- ・DaTa SuperExpressは、株式会社DTS の登録商標です。
- ・BI NavigationStudioは、株式会社DTS の登録商標です。
- ・HitachiおよびAdvanced Data Binderは、株式会社日立製作所の日本における登録商標です。

■取り扱い事業部・照会先

株式会社DTS 産業公共事業本部 産業公共営業統括部 [担当:平久(たいらく)]

〒105-0004 東京都港区新橋六丁目12 番4号

電話:03-3437-7524(直通)

E-Mail:s-tairaku@dts.co.jp

株式会社日立製作所 情報・通信システム社 ゼネラルマーケットビジネス統括本部

パートナービジネス第一営業本部 [担当:松山]

〒140-8572 東京都品川区南大井六丁目27番18号 日立大森第二別館

電話:03-5471-2504(直通)

以上